

中間評価／審議対象プロジェクト 評価要旨

鉄鋼材料の革新的高強度・高機能化基盤研究開発(中間)

- ◆ 期間 2007年～2011年(5年)
- ◆ 事業費総額 30.5億円(2007～2009)
- ◆ 委託先 (財)金属系材料研究開発センター
- ◆ 共同実施先 室蘭工業大学、東北大学、東京工業大学、上智大学、横浜国立大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、愛媛大学、九州大学、九州工業大学、(独)日本原子力研究開発機構、(独)物質・材料研究機構、(独)理化学研究所
- ◆ 助成先 新日本製鐵(株)、JFEスチール(株)、住友金属工業(株)、(株)神戸製鋼所、大同特殊鋼(株)、愛知製鋼(株)、山陽特殊製鋼(株)、(株)住友金属小倉、(株)IHI、川崎重工業(株)
- ◆ PL 名古屋大学 副総長 宮田 隆司

<プロジェクト及び評価要旨>

○プロジェクト

鉄鋼材料の高機能化や長寿命化を目的として革新的溶接接合技術、先端的制御鍛造技術といった鉄鋼材料の革新的高強度・高機能化基盤を構築する。

○評価

初期の目標設定に対し、比較的順調に研究開発を進めており、大型プロジェクト遂行に関し高く評価できる。高級鋼材の溶接技術に関しては実用化の見通しが高い。一方、制御鍛造技術に関しては、実用化・事業化がシナリオ通りに行かないことが懸念されるため、今後の実用化や事業化に際しては、ユーザーとの連携が重要であり、信頼性・経済性の視点からの確認と評価を強化するために、早い段階でのユーザーニーズの収集が必要である。

○提言

最終的な成果は、企業において実用化・製品化されて初めて実現するものであるから、技術上の成果だけを追求するのではなく、コストの面や市場での活用を十分に意識し、市場や社会の変化を見据えた柔軟な対応を期待したい。

○評点

	事業の位置づけ・必要性	研究開発マネジメント	研究開発成果	実用化の見通し
中間 (平成21年7月)	3.0	2.6	2.6	2.0